

虹のかけはし

今月の題字

金井 聡 さん

(みどり市大間々町)

普段は東京の六本木ヒルズで都市開発の仕事をし、週末は大間々町塩原で農業に汗を流す金井さん。「群馬の畑から」など3冊の本も出版しています。

虹の架橋

検索

で、インターネットからでもご覧いただけます。

熊本地震義援金付チャリテイポロ みどり市の一体感にも貢献

東日本大震災以来毎年、「チャリテイポロ」の取組みを続けているみどり市では、これまでに東日本大震災や熊本地震の義援金として三百三十九万円を送ってきました。今年もチャリテイポロビズの輪を広げて熊本地震の被災地に義援金が送られます。
今年はボタンダウンのカノコポロシャツでポリエステルと綿素材の吸湿性のある半袖シャツです。



色は5色、サイズはSS~4L

胸の刺繍のデザインは今年もみどり市役所の新人職員からアイデアを募集。みどり市の地形を花束に見立て、いつも感謝の気持ちをお忘れないうに「for you」の文字を添えた介護高齢課の佐藤榛名さんのデザインが採用され、「widow」の文字が左袖に刺繍されています。みどり市は旧東村、大間々町、笠懸町が合併して十三年目を迎えました。地形が花束の形をしていることに初めて気づきました。みどり市の一体感と愛着を感じさせてくれる花束のデザインの発想は本当に素晴らしいと思います。



紺、茶、エンジ、モスグリーン、白、五色。税込千七百円のうち三百円がみどり市から日本赤十字を通して熊本地震の被災地に義援金として送られます。サンプルは足利屋、アスクにご用意しています。



小耳にはさんだ いい話 (文責・菊) 《275》

雲の上はいつも青空

東吾妻町の長徳寺ご住職の酒井大岳さんが「雲の上はいつも青空」(河出書房新社)というエッセー集を出版しました。「人生を励ます禅僧の五十話」というサブタイトル通り、笑いあり涙ありのお話は私達の心を優しく励ましてくれます。「もう一步深いところを見る」というお話も笑って深い話でした。「女子高で国語の授業に出たとき、うしろの四、五人が騒いでいるので、そばに行ってみると、画用紙を裏返して「見ちゃダメ!」と言います。「そう言われると余計見たくなるんだよ」と言って無理に取り上げてみると、棒グラフが書いてあって、下のほうには先生の名前。一番長い線の隣りに「君が代先生」と書いてありました。聞いてみて驚きましたよ。同じ靴下を三日も四日も続けてはいてきたので「コケのむすまで」、それで君が代先生なのだそうです。教壇に戻って黒板に「深慮遠慮」と大書しました。「読めるか?」と聞いたなら「読めません」と言うんだね。そこで私はこんな話をしたので。
「これはね、じんしえん」といけな。目をやらないといけな。みんなも、この学校を卒業して社会に出ていくと、周囲からいろいろな目で見られ、批判される。そんなとき、この言葉を思い出すといいよ。そして、自分は何なるべく表面だけで人を語らないように心がけるんだね。分かってくれたかな?」
十数年前、大間々でも講演をしていただきました。懇親会でお酒を飲みながら「箸よく盤水を回す」という言葉を教えていただき、人生の道が開けました。

世界一小さな 定利屋 トイレ美術館

今月の絵 《275》 今泉輝子さん『赤城山』



今月の絵は、大間々町六丁目・今泉家具センターの今泉輝子さんが描いた「赤城山」です。この絵は笠懸町西鹿田から見た赤城山で山肌の繊細な色使いに見惚れてしまいました。
萩原胡太郎が故郷の前橋へ帰る汽車の中で「まだ上州の山は見えずや」と想った赤城山。上州人にとって赤城山は心のふるさとですね。今泉さんのお店にも素敵な絵があり、二階には息子さんの智幸さんがはじめたお洒落な雰囲気のカフェ・タンジェリンがあります。美味しいコーヒーと智幸さんとの会話が楽しめます。

靖ちゃん日記

六月三日(日)
なめめ余興場で浪曲「富士路子の世界」を開催した。十一時半に赤城駅に迎えに行ったが電車が三十分遅れた。会場準備とりりハサルの時間が短かかたが、さすがに二時開演にピッタリ間に合った。富士路子さんは日本浪曲協会会長の貫録で、「白餅大名」と「慈母観音」を熱演して拍手喝さいを浴びた。幕が下りるとすぐに玄関に回り、お客様をお見送りした。「よふたつ」と涙ぐんで師匠と握手する人たちが見てもう泣き止まなかった。舞台の後片付けが終わって懇親会場へ。美人で可愛いお弟子さん三人を車に乗せてランキーと買ったアツという間に着いてしまった。東京から来た追っかけのファンも参加して懇親会は大盛り上がりだった。酒が入るとなせか口も尻も軽くなる。富士路子師匠は地酒の赤城山が大好きだった。三人の若いお弟子さんたちにもお酌に行きたか逆らに飲まされた。低目狙いは予想通り空振り三振だった。

新ジャガや孫の拳と句くらべ
孫の琉馬がお泊まりした翌朝は、神棚と恵比寿様とお稲荷さんと仏壇にいっしょにご飯をお供えし、枝豆とナスとジャガイモに水をやるのが決まりです。葉っぱが黄色くなりはじめたジャガイモを収穫しました。「ジー、とれた」と嬉しそうにみせるジャガイモは泥だらけの孫の握り拳(こぶし)と同じ大きさ。早速ふたりに食べました。ホクホクの新ジャガとそれを握る小さな手が旬の輝きを競っていました。「独楽吟」風に表現するならば、「たのしみは孫と二人でとりたてをうまいうまうまと言ひて食ふ時」

第二七六号は七月一日(日)発行予定です。

靖ちゃんの似顔絵提供: ひさかさん